

和歌山県内経済情勢報告

(令和7年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項 目	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回 比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和7年4月判断は、前回7年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、緩やかに持ち直しているなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回 比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	6年度は減益見込み	6年度は減益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や、各種政策効果が持ち直しを支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、冬物衣料品の需要が好調であったことから衣料品の売上げが増加しているほか、値上げの影響で客単価が上昇していることから、飲食料品の売上げが増加している。

コンビニエンスストア販売は、価格上昇の影響に伴い売上げが増加している。

ドラッグストア販売は、食料品や日用品の買上げ点数が減少しているものの、価格上昇の影響から売上げが増加しており、堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、エアコンや冷蔵庫が好調であることから、前年の売上げを上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、前年の一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響の反動などで前年を上回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、円安の影響などにより外国人観光客数が増加していることから、観光客数が堅調に推移しており、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 他の精肉と比べて、ミンチ肉などの低価格の商品の需要が高まっていることから、畜産物の売上げは前年を下回っている一方、キャベツなどの葉物野菜が高騰している影響もあって、農産物の売上げは前年を上回っている。全体としてみれば、前年と比べると来店客数や買上げ点数は減少、客単価は上昇するという傾向が継続している。(百貨店・スーパー)
- 気温の低下に伴い、冬場における冬物衣料品の売上げは好調となったものの、春先は気温がなかなか上がってこなかったことから、春物衣料品の売上げが低調となった。(百貨店・スーパー)
- 商品の価格が上がっていることなどから、食料品や日用品の買上げ点数は減少している。日用品については、大容量でお得感のあるものがよく売れるようになっている。(ドラッグストア)
- 新生活需要の高まりや商品価格の上昇により、エアコンや冷蔵庫の売上げが前年を上回っている。足下では、補助金の影響で買替えの相談に来る顧客が増加している。(家電量販店)
- メーカーの生産状況の影響から、ほとんどの車種で受注制限がかかっている状況ではあるが、前年は一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が大きかったこともあり、今期の販売台数は前年を上回っている。(自動車販売店)
- 全体の観光客数について、行楽シーズンであった前期と比較すると減少しているものの、前年同期と比べて増加しており、特に外国人観光客が増加している。(公共団体)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「鉄鋼業」などは低下しているものの、「機械工業」などは上昇している。

企業からは、中国経済減退の影響が継続していることなどから生産量が停滞しているとの声が聞かれており、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 大阪・関西万博の施設建設やインバウンドの増加を背景とした新たな宿泊施設の建設によって、生産量が増加している。(はん用機械)
- 国内向けの受注が前年を下回って推移しているほか、海外向けについても、中国の内需が引き続き低調となっていることなどから前年を下回っている。(生産用機械)
- 衣料用洗剤や柔軟剤の販売状況が好調となっているほか、食器用洗剤の新製品もよく売れていることから、生産量が増加している。(化学)
- 中東や米国向けを中心にエネルギー関連製品の需要は好調となっているものの、全体としてみれば需要は低迷しており、さらに、海外で過剰に生産された鋼材が流入していることなどから、収益環境も悪化している。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

新規求人数は、減少しているものの、有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 「建設業」について、物価高による資材価格の高騰や人件費の増加によって、建設コストが上昇しているとの声が聞かれており、企業が一時的に求人を出すのを見送っているという印象を受けている。(公的機関)
- 営業部門や技術部門の人員を確保したいが、募集をかけてもなかなか応募がない。(はん用機械)
- DX化などで効率化を図り事務員の採用を控える一方で、ドライバーや整備士を増やしていきたいと考えているが、同業他社に転職する場合などもあり、ドライバーが不足している。(運輸・郵便)
- 非正規職員の入れ替わりが激しく、一部では不足感がある。大阪府と賃金格差があることから、人材が流出しており、採用が難しくなっている。(百貨店・スーパー)
- IT技術者の賃金が上昇傾向にあることから、人材定着の観点も踏まえて、職種ごとの賃上げの水準にメリハリをつけている。(情報通信)
- 個人経営の民宿等では主に日本人スタッフが雇用されているが、ホテルなどの大型宿泊施設ではフロントを中心に多国籍の外国人スタッフが増加している。(公共団体)

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査(令和7年1-3月期調査)でみると、6年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」

法人企業景気予測調査(令和7年1-3月期調査)でみると、6年度の経常利益は、全産業で減益見込みとなっている。産業別では、製造業で赤字転化見込み、非製造業で減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を上回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲すべてで前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を下回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、国で前年を上回っているものの、県、市町村、独立行政法人等で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査(令和7年1-3月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、非製造業で「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業で「上昇」超となっているものの、中小企業で「下降」超となっている。